

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第96回「チーフストラテジスト 瀧山 裕二の初夢 大妄想」

- 新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願ひ致します。
- 今年初めてのウィークリーレターですので、短期的あるいは長期的な市場動向やイベントの私なりの予想をお送り致します。私の偏った考え方や希望による予想のため、「大妄想」という表題としました。

～妄想1～

米国では11月の中間選挙を控え、共和党は選挙戦で優位に立つために矢継ぎ早の財政政策を実施したり、新しく任命されたFRB議長の大福利下げなどによって、急激に景気が拡大し始める。米国株式市場は「NYダウ工業株30」を中心として上昇するが、年央以降、物価が上昇し、それとともに長期金利も上昇。株価は中間選挙前には調整局面となり、年初比でマイナスとなる。その後年末に向けて値を戻すも前年末と同じ程度の水準となる。

～妄想2～

このような経済状況や市場動向により、中間選挙で共和党は議会下院の過半数を割り込み、トランプ政権の政策実行能力が低下する。トランプ大統領は権力の奪還を目指し、ポピュリズム政策を推し進めるが、この政策により2027年以降の米国経済は、ますますインフレ体質が抜けず物価の上昇・下落が激しくなり、金融政策は短期的な引き上げ、引き下げが繰り返される。

～妄想3～

一方、孤立主義に傾注したトランプ外交により、友好国や権威主義国は米国との関係の見直しを進める。2029年以降のトランプ大統領を引き継ぐ政権が孤立主義を継続する場合、米国の世界経済での比重が減少する。通貨「ドル」に対する信認が危うくなりドル安が進む。（円に対してドル高になるかどうかは日本の経済状況次第）

～妄想4～

日本については、高市首相の「日本経済成長戦略」の実施によって3～5年後には日本の技術力や製造業が世界から見直され、輸出量が増加する。それに伴い、日本経済はデマンド・プル型インフレ（需要拡大によるインフレ）に転換し、潜在成長率が1%超となる。日本の株式市場は海外投資家からの資金がさらに流入し、上昇基調が維持され将来的には日経平均株価は10万円を超える。

～妄想5～

通貨「円」は、日本経済の潜在成長率が高まるまでは円安基調が継続し、円の水準は米国経済の拡大・縮小で決まる。米国景気の拡大局面では1ドル=160円を超える180円程度までの円安も考え得る。逆に米国景気の縮小局面では1ドル=130円程度までの円高となる。ただ<妄想4>のように日本経済の潜在成長率が1%超えとなれば、1ドル=125円を超える円高となると想定。（経済成長への期待継続で、円高の下での株高となる。）

～妄想6～

世界の分断は一層進み、自国を守る軍拡競争が起こる。戦力が拡大した国は他国への侵略の誘惑にかられ、局所的な紛争が多発、国際連合の形骸化が進む。その後、第3次世界大戦の手前まで緊張が続く。軍国主義の復活には注意すべし。

～妄想7～

高市首相の台湾有事発言に端を発した日中関係の悪化はなかなか収まらない状況が継続しているが、今年4月に予定されているトランプ大統領と習近平国家主席との会談後に変化が起きるかもしれませんと想定。この会談がトランプ大統領の意に沿わない状況となれば、台湾や日本を擁護する姿勢を鮮明にし中国に再度圧力をかける。

～妄想8～

金融市场の妄想から離れ、短期的な妄想を二つ。米国大リーグでドジャースがワールドシリーズ3連覇を達成。1998年～2000年まで3連覇したニューヨーク・ヤンキース以来の3連覇を大谷翔平投手兼選手、山本由伸投手、佐々木朗希投手の3人で実現する。また、日本の野球界では阪神タイガースが2023年以来となる日本シリーズ優勝を達成。日本一の座を奪還する。

以上は年末までに私が想定していた妄想ですが、年が明けた1月3日、米国トランプ政権は麻薬密輸阻止を口実にベネズエラを急襲、マドゥロ大統領を拘束し米国へ移送するという驚きの作戦を実行しました。

トランプ大統領の「力による平和」が実践された形となりました。この米国の行動によって、世界の分断は益々進むことになります。私の妄想は、それほど長い時間もかからず現実になるかもしれませんと想定します。

今後の資産運用では、経済動向に加え世界の政治的、地政学的、軍事的な要因を考慮していくことが重要だと考えています。

（2026年1月4日記）